

講演会「歴史的遺産と共生する、これからのまちづくり
～世界遺産のあるまちをめざして～」

主催 神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会

第3部 パネルディスカッション



ディスカッションに参加された方々

デービッド・アトキンソン氏（株式会社小西美術工藝社 代表取締役社長）
佐藤孝雄氏（鎌倉大仏殿高德院住職）
朝比奈恵温氏（浄智寺住職）
仲田順昌氏（覚園寺副住職）
加藤健司氏（鶴岡八幡宮教学研究研究所所長）
村山さん、宮城さん、飯田さん（県立鎌倉高等学校生徒）
コーディネーター：榎渕規彰（4県市世界遺産登録推進委員会事務局長・
鎌倉市歴史まちづくり推進担当担当部長）

世界遺産と日本遺産の 取組について

榎渕 まず始めに、アトキンソン氏のご講演にも出てきました日本遺産についてご説明いたします。鎌倉市としては、急ぎよ日本遺産にトライするということで、昨日付（平成28年2月10日）で日本遺産認定申請書を県へ提出したところです。4月の半ばくらいにはその結果が出るということでございます。※

日本遺産と世界遺産、「日本」と「世界」が違うだけで遺産の文字がついていて印象としては非常に似かよっています。しかしなが

※平成28年4月25日、日本遺産に認定。ストーリータイトルは『いざ、鎌倉』歴史と文化が描くモザイク画のまちへ』。

らこれは全く別物です。世界遺産の場合は、あくまでも顕著な普遍的価値を有する遺産を、国際協力の下に保存・保護していくことが主たる目的です。日本遺産の場合は、保護というよりは情報発信、その素晴らしさを発信して人々に理解していただくために認定を受けて活用していくものです。鎌倉の文化遺産を守り、発信する、歴史まちづくりのための一つのツールとして両方とも活用できると考えております。

このパネルディスカッションでは、先程のアトキンソンさんの講演の内容からいくつか論点を抽出して、皆さんと意見を交わしたいと思っております。鎌倉のまちづくりの問題点・課題を抽出でき

るにしなければ意味がないと思います。

さらに、鎌倉に観光に来る人はほとんど鎌倉駅を使うと思います。が、今のまち並みは古都というよりも近代的になってしまっています。駅を出てすぐの道で「鎌倉に来た」と思えるまち並みづくりが必要だと思います。さらに、フェイスブックやツイッターなどのSNSが世界中に広がっている中で、これを活用しない手はないと思います。

飯田さん 今回の講演会で、日本遺産という言葉が初めて聞きました。今ある文化財を磨くためのものということを知ったので、まず日本遺産で鶴岡八幡宮な

れば良いと考えております。

まずは、アトキンソンさんの講演をお聞きになったパネリストの皆様は感想を伺いたいと思います。最初はフレッシュな高校生の皆様からお願いします。

鎌倉高校の生徒の皆さんの意見

村山さん 私は、今日のアンケート調査の話で、おもてなしを動機に観光する人はいないということを知り、日本人はこの「おもてなし」という言葉をよく使いますが、実際「それって何？」と聞かれると、上手に説明できないと思いました。

同じように、外国人の方が鎌倉

どの文化財を大切に磨いて、その上で世界に発信していくというところが大切だと思いました。外国と日本の拝観料が1000円以上も違うという話にも驚きました。日本人の感覚だと拝観料・入場料が1000円以上になると高いと思います。外国と日本の観光に対する価値観というものをもう少し統一していくことができれば良いと思います。

観光による収入増ありきで考えてよいのか(佐藤氏)

佐藤氏 まずは興味深いご講演を伺わせていただいたアトキンソンさんにお礼申し上げます。昨日、

にただただ昔の雰囲気を感じるわけではないのに、もしかしたら日本人が勝手におもてなしをしていると勘違いしてしまっているのではないかと、とも思いました。日本人の感覚の押し売りにならないよう、私たちがまず鎌倉の歴史をもう一度見直さなければならぬと思います。そうすることで、情報不足という点も改善されるのではないかと思います。

宮城さん 説明が書かれたパネルがあります。調べ物をしている時に見る分には良いのですが、文化財などを見に行った時に見ても「ここに来て良かった」と思えるものはないと思います。まず日本人が「見てよかった」と思えるパ

ネルにしなければ意味がないと思います。

アトキンソンさんの著書を拝読させていただきました上で本日お話を承りました。その上で、改めて感じますことは、「誰しも自らを客観的に評価することなどできない」という点です。

当然ながら、私たち鎌倉市民にとって、暮らしの場たるこの地は自分たちの一部として日常化しております。それだけにこの地のもつ長所にも鈍感になっていきます。あたかも宇宙船に乗って大気圏の外に出た宇宙飛行士が初めて地球の美しさに気づいたように、我々が受け継いでいる文化や歴史の素晴らしさを評価していただくには他者の目が必要です。その意味から、アトキンソンさんのような方が他者の眼差しを鎌倉に向けてく



パネルディスカッションに参加された方々

左2人目から飯田さん、宮城さん、村山さん、仲田氏、加藤氏、朝比奈氏、佐藤氏、アトキンソン氏、榎淵 4 県市世界遺産登録推進委員会事務局長

ださることは大変ありがたく存じます。

ただ一方で、今日のご講演を本日
のテーマである「まちづくり」
に引きつけて考えますと、正直そ
れで良いのかという疑問も抱かざ
るを得ません。今日、アトキンソ
ンさんがデータを駆使され、観光
がこれからの日本経済にどれ程重
要かをお話しくれました。正
鶴（せいこく）を射たご意見だと
思います。私も経済に果たす観光
の重要性を否定する気は毛頭あり
ません。鎌倉には年間2000万
人以上の観光客が訪れてくださっ
ており、観光収入で税収が潤って
いるのも事実です。

ただ、「まちづくり」を考える
に当って、アプリアリ（先験的・

先天的）に観光客を増やし、収益
を高めることを是として議論を進
めてしまってもよいものでしょう
か。

もとより「まちづくり」の主役
は住民であるべきはずですが。そし
てその中には様々なステイクホル
ダー（利害関係者）がおられます。
ましてやまちや生活の「豊かさ」
は経済によつてのみ測られるべき
ものでもありません。それだけに、
こうした場でも、まずは観光都市
として発展することの是非から問
うていただきたいと思います。

**宗教者として譲れない
ところもある**（朝比奈氏）

朝比奈氏 アトキンソンさん、あ

りがとうございました。いろいろ
承って、データを駆使された、一
つ一つが納得のいくお話でした。
すでに分かっていることが中心
で、「いつかやるつもりだから」
と宿題を先送りしている小学生が
叱られているような気分で聞いて
おりました。

しかしだからといって、それら
に対処していったら全て丸く収ま
るかと言えば、それでは済まない
部分がたくさんございます。我々
宗教者としては、譲れないところ
も出てくると思います。

特に私ども禅宗のお寺は「説明
することを良しとしない」「黙っ
て時終われり」というところがこ
ざいます。庭だったら「この庭を
見ろ、何の説明もない、見ただけ

でいいだろう。それ以上のことも
それ以下のこともない」という宗
派でございます。そこを何とか折
り合いをつけていくのは簡単では
ないと思います。

**外国人への情報発信は
容易ではない**（加藤氏）

加藤氏 神社でも「言挙げせず」
という言葉があります。ただ、そ
ういう時にいつも考えるのは、以
前の話で言うと、日本の文化なり
鎌倉の武家文化や日本の精神文化
というのは、ものすごく特殊だと
いう誤った思い違いがあったとい
うことです。それぞれの国にはそ
れぞれの風土とか生活とかいった
ものを母体にした文化がありま

す。極めて個別的な文化がありま
す。

そのような「特殊だ」と思われ
ている部分をなくそうということ
で、鶴岡八幡宮では6〜7年前に
国際課を作り、説明を英語で行っ
ていくという課題に取り組み始め
ました。英語での取組というのは
難しく、高い知識をもっておら
れる外国人の方に、日本人が作っ
たものを手直しして発信していく
努力をしているところです。

**30年近く続けている覚
園寺独自の取組**（仲田氏）

仲田氏 覚園寺はほぼ1年365
日1日5回、お寺にいらした方に
約40分から50分お時間を頂戴して

境内の中をご案内するという拝観・参拝の仕方を30年近く続けております。鎌倉ガイド協会さんにお力添えをいただいで続けていますが、こうした覚園寺の取組をご紹介しますが、それをまちづくりに広げていけないかということでお話させていただきます。

個人的には、世界遺産になってもならなくても私たちの日常生活やお寺で守るべきことは変わらない、という立場でありました。ところがいったん報道で「駄目だった」と言われると悔しくて、「駄目と言われるのはこんなに悲しいことだったのか」とがっかりいたしました。

やはり「良い」と言っていたたぐのはうれしいことなのだと思います。

ます。鎌倉が鎌倉であるためには、神奈川県や横浜市や逗子市といったまわりの地域があつてこそその鎌倉らしさだと思つたので、そういう企画にお招きいただいたことに心して議論に臨みたいと思います。

社寺は、まちづくりと観光施策の軸

榊淵 どうもありがとうございます。佐藤ご住職から最も本質的なご指摘をいただきました。アトキンソンさんのご講演の主なテーマである観光施策という視点が、まちづくりに直接的に結びつくのかという議論は出てくるかもしれません。私なりに解釈しますと、やはり鎌倉は800年来の社寺が

ベースにあり、その社寺がまちづくり上の、そして観光施策の軸になつてくると思います。

時間の関係で幾つかポイントを抜き出して考えてみますと、拝観料の世界の平均は1891円であるのに対して日本は593円であることは、私もショックを受けました。この話題を少し議論してみたいと思います。まずはアトキンソンさんから補足をお願いいたします。

観光客数は多ければ良いわけではない (アトキンソン氏)

アトキンソン氏 一つ考えなければいけないのは、「数」について

の討議です。昨年は日本全体として1974万人の外国人観光客が来ています。数だけの話になっていきますが、実際には上客がほとんど来ていません。諸外国の場合、近隣諸国から半分くらい、遠いところから半分くらいというのが一般的な比率になっていきます。それに対して、日本は近隣諸国が85%、遠いところが15%です。ですから、遠いところから来る観光客を増やすべきです。

遠いところから来る観光客には、二つのメリットがあります。滞在時間が長くなるということが一つ目です。もう一つは、遠いところから来る人たちは上客になりやすいという点です。なぜ上客なのかという点、日本に来るのに時

間がものすごくかかるからです。格安旅行はできません。ということとは、必然的に所得層としては半分くらいから上の方の人たちということになります。これが隣の国からですと、格安旅行で何千円、何万円という単位で来ることができます。やはり、落とせる金額はその分だけ変わります。

観光客が減っても観光収入は維持できる (アトキンソン氏)

もちろん、人数がある程度来なければ収入は得られませんが、人数さえ来ればいいという問題でもありません。冒頭で申し上げたように、日本は大量な安売りという

考え方でやってきました。「200円で何千万人が来れば良い」「2000万人よりは3000万人来てもらった方が良い」という人数で測る考え方は、私としては、その考え方が正しいのかどうかを考える必要があると思います。

例えば、拝観料を600円しか払わなくてよい二条城は、本来は2000円くらいの価値があるはずですが、拝観料を2000円にすれば二条城に来る人は減ります。ただ、収入がその分だけ減つてしまふということはありません。むしろ収入全体は上がつていきます。さらに二条城に対する負担も減ります。建物に対する害もその分だけ減つていきます。

ですから2000万人とか20

00円といった数字にはあまり意味がなく、やはり経済学通りによくのくらしいの人が来て、それを実現するためにどれくらいのお金を設定すればよいのか、その金額をいただくためにどんなサービスすれば良いのか、という話が重要だと思います。

大切なのは来る人がどう思うかということ（アトキンソン氏）

ご住職がおっしゃる「他者に多くを語らない」というお考えは分かります。ただ、一番のポイントは「来る人がどう思うか」ということです。私が正しいかご住職が正しいかという議論は、観光だけ

を考えれば本質的な議論ではありません。来る人がどのような説明をして欲しいのか、ということが重要です。

その上で、来る人とご住職とのやり取りで「ここまでやるか、これ以上はやらないのか」ということが決まるのであって、議論する相手は私ではないのです。

ご住職の貴重なご指摘は本当にその通りで、多様性は重要です。説明や解説の多様性も必要で、多くを語る場所もあれば多く語らなくても良い場所もあるでしょう。シンプルアンサーがあるわけではありません。ですから、例えば龍安寺に説明がないというのは論外ですが、実際には全部を説明することはできないわけです。

個々に皆さん全く事情が違いますから、それぞれがどのような料金設定するのかということが大事であって、当然一律に1891円になれば良いということではありません。このバランスをどうするのか、ということですね。

ただ一方で、「多くを語るものではない」とお決めになったとします。しかしもし、私が総理大臣を連れて来て「総理大臣の質問には一切答えないでください」と言ったら、果たしてそれができるでしょうか。高貴な方がいらっしやったら、皆さんこと細かに説明されるのではないのでしょうか。

ですからやはり、「説明ゼロ」ということにはならないと思います。皆さんが「総理大臣にはこれ

ぐらいは説明しよう」といった感覚でいけば成功するという気がします。

日本の社寺の拝観料について

梶淵 拝観料については、アトキンソンさんの著書の中でも書かれています。要は拝観料の収入を上げることによって文化財や貴重な境内の整備といった費用が賄えるのではないかとおっしゃっているということをお見せさせていただきます。

鎌倉を見てみますと、八幡宮さんのような神社の場合、境内は無料で入れるという状況です。お寺はだいたい平均しますと300円

くらいという価格帯だと思えます。高校生の方も言っていました。けれども、「そんなに高くなると入れません」という感覚もあるかもしれません。先程「宗教上のこともあって」というご発言もございましたが、やはり「日本の社寺の拝観料は安すぎるのではないのか」という辺りについて反論なり何なりいただければと思います。

神社は開かれた施設である（加藤氏）

加藤氏 お寺というのはそれぞれの檀家さんがあって維持されています。その檀家さんのための宗教施設という側面があります。ところが神社というのは、一つの地域の

氏子さんのために開かれた宗教施設という部分があります。それで、伝統的に神社で拝観料を取るということはほとんどありません。珍しい例が日光東照宮でしょうか。ここは、境内に入るためのお金を取っていると思います。

高いか安いかわからない質問の答えになるかどうか分かりませんが、以前に関西のある大きなお寺の方が、鶴岡八幡宮を訪ねて来られました。その方は鶴岡八幡宮もご自分のお寺と同じように拝観料を取っていると思っておられました。人の流れの数をスマホで計算しながら、「すごいでんなあ」と言っておられました。

果たしてその方がすごいと言われた金額がどれくらいなのかはよ

く分かりませんが、アトキンソンさんが言われたように、二条城の拝観料が600円でお抹茶代が900円というのは本末転倒という気がします。

榎淵 ありがとうございます。たしかに、我々鎌倉にいる人間からすれば「そういうことなのか」と気付くところかと思えます。私も驚きました。それでは朝比奈ご住職に、お寺の感覚をお話しいただけますでしょうか。

**高いか安いかわけではなく
どう満足感をもっても
らえるか** (朝比奈氏)

朝比奈氏 高いか安いかわけというだけではないからそれに合わせましょう」といったことではなくて、やはりお見えになる方に対してどれだけ親切にしていけるかということをいろいろ工夫していくと「鎌倉駅から歩いてみてすごく良いことがあった」ということが広まって、ひいては色々な方々が大勢みえると思えます。ただ大勢なだけではなく、価値をちゃんと理解して喜んで来ていただけると思っています。

確かにお寺にはいろいろな方がみえて、よくお分かりでない方はあつという間に通り過ぎて行つて「なんだ、こんなにお金を取つて」とおっしゃる方があります。それはある意味で私たちの怠慢なのかもしれません。しかし、普段通り

けの話ではないと思えます。また、今のままで拝観料を高くして良いわけでもないと思えます。拝観料が安いと安いなりの気持ちでしか対応できなくなるという面もあると思えます。

私どもも、日々のいろいろな業務に忙殺され、拝観に見える方に対して果たして親切に対応しているかというところ、必ずしもそうとは言えないというところがあります。ですから、今の状況だとこれくらいで許していただいています。これがもう少し高くなりますとやはり、「こんなに払ったのにこの程度ですか」という批判が絶対にあると思えます。

そういう点では私たちも「安いから上げましょう」とか「国際水

のお庭の提供でも「良かった」とおっしゃってくださる方もあり、その辺りを工夫していったら全ての方が喜んでいただけるといふことになると思えます。満足感をどのようにして抱いていたか、よく考えなければいけないという気がします。

榎淵 ありがとうございます。やはりそこは、アトキンソンさんが言われた「磨く」ということにながるのだと思えます。高いか安いというよりも、本質的に皆さんは何を求めて来られるのか、そのニーズに対してどれだけ満足感を提供できているかということ、これは、まち全体も一緒だと思います。

先程から言われているように、鎌倉の駅を降りてパッとまちを見た時に「鎌倉」を感じられるのか、歴史文化を感じられるのか、という決してそうではありません。それを感じられる施設を作っていないといけないということはお寺や神社だけではなく、行政も一緒になってやっていかなければならないことだろうと常々思っております。

この話題の一つの結論としては、上客というのはいっぱいお金を落としてくれるというだけではなく、「ニーズの質が高い」と言いますか、日本文化を根底から学びたいといったニーズを持っています。そうであるならば、その答え、つまり質の高い情報提供をし



拝観料について熱のこもった率直な意見交換が行われました

た上でそれなりの対価を支払っていただくという形で差別化していくということが良いかと思いません。この辺りはこれからまた議論を深めていきたいと思えます。

文化財であるだけでなく、信仰の対象でもある (佐藤氏)

佐藤氏 鎌倉で最初に拝観料の徴収を始めた寺院は高徳院なので、拝観料を申し受け始めた当初は大変な批判にさらされたと聞いております。ただ、その拝観料については、徴収を始めた当初より一貫してJRの駅入場券とかけ離れない額に設定しています。なぜなら、自坊の本尊たる大仏

像は、文化財であると同時に信仰の対象でもあるからです。神社仏閣はいずれも信徒を抱える宗教施設でもあります。よって、この点を斟酌(しんしゃく)することなく、社寺の拝観料を云々すべきではないと考えます。

榎渕 ありがとうございます。まさに本質的なところはそこにありまして、信仰の対象と言いますか、信仰そのものの部分と文化財の部分という議論は、おそらく結論が出てこないと思います。ではアトキンソンさん、今の部分についてコメントをお願いします。

信仰する人とそうでない人で拝観料を分ける方法もある(アトキンソン氏)

アトキンソン氏 この議論は当然、海外にもあります。皆さんが例えばバチカンに行くと、それは信仰の場でもあります。イギリスにもウエストミンスター寺院という有名なところがありますが、私が子供の頃は拝観料を取るなど絶対に考えられませんでした。

しかし、信仰する人が減り、同時に修理するコストが高くなったことによって、結局お賽銭(さいせん)だけでは間に合わなくなりません)だけでは間に合わなくなりました。国の方から、文化財である以上は税金をもらってそれでやっているの、信仰している人

は無料でも構わないがそれ以外の人は無料では駄目、ということになりました。それで拝観料を任意的に課すことになりました。しかし誰も納めてくれないということで、結局は強制的になりました。

今では、拝観料を払わないと中に入れません。ただし、行事など、信仰している人たちの無料の枠というのが別にあります。「何時から何時までは信仰のためである」とか「日曜日は無料です」とかいった具合です。ただし、これは宗教的な行事ですから、観光客は一切入れません。

実はこの間、日光のお寺さんに行った時に「うちは信仰する方たちが来る場所なので、拝観料はあまり取れません。外国人に手を合

わせて信仰してもらえないでしょうか」と言われたので、次のようになり取りをしました。

「失礼ですがバチカンにいらしたことはありますか」「あります」「大聖堂はまわりましたか」「まわりました」「その時に手を合わせたとします。いきなり神父さんが出てきて信仰してもらえませんか、と言われたらどう思いますか」「絶対にお断りです」「では逆は何で駄目のですか」「なるほど、そういうことですね」となりまして。

信仰している人もいれば、外国人観光客のように信仰しているわけではない人もいますので、さっき加藤さんがおっしゃったように、この分け方というのは非常に大事

ディスカッションでは信仰と観光の関係についても討議されました



なことです。

柗淵 ありがとうございます。今アトキンソンさんが言われた、信仰のための場合と、純粹な信仰とは違って見学してまわりたいという方では違うところですが、その一つのヒントとして覚園寺さんがされてきた「時間を区切って」という方法について、仲田副住職はいかがですか。

外からの刺激を受けて鎌倉の魅力を再認識した(仲田氏)

仲田氏 覚園寺は拝観料として大人が500円いただいております。小中学生は200円です。お

そらく鎌倉の中では一番高いのではないかと思っておりましたが、はとバスで1時間1000円と聞くのと「ああ、そんなこともないのだな」と思ったりもします。

昨日、今日の話題のために与えられた試験かと思えることがありました。

昨日の覚園寺の拝観は、多いかどうかわかりませんが1日61人でした。そのうちの31人が中学1年生、早稲田中学校の方たちでした。私は午後3時のご案内をしました。が、3人でした。一人は女性の方、日本人です。残りの二人は中国からいらつしやった方たちです。

片言の英語でご案内したことはありますが、さすがに中国の言葉は無理でございました。ちよつと

フォンを通して出てくる一つの化学反応の中で「良い雰囲気が出てきているな」と感じました。

最後、帰る時のお話です。覚園寺には民家がありまして、江戸時代に作られた民家で、昭和56年に覚園寺の境内に移されてきたのですが、3時の拝観になるとかなり暗くなります。よく日本人はこんな家で暮らしていたなと思うぐらいの暗さなのですが、その暗い中から外を見ると、外がよりいっそう明るく感じられます。そして、とてもしみみりとしているので、なんとなく鳥の鳴き声などが風流に聞こえてくるのです。

その光景を中国人女性はすごく気に入ったようで、「日本のとても美しい景色を感じました。鎌倉

に来て良かったです」という一文を携帯に残してくれました。

拝観料を500円いただいで、それが高いか安いかはちよつと私には分かりませんが、外からいらつしやった方の刺激を受けて私たち日本人あるいは鎌倉近隣に住む人たちも、鎌倉の魅力やまちな魅力を感じる良いドラマになったのではないかという感じがしました。

ただ、それが全て毎回成功するわけではなくて、やはり「40分からはいけない。とにかく歩いて歩かなければいけない。これはお寺のあり方としてどうなのか」というご批判もいただく中で、いろいろと試行錯誤しているのが現状で

面倒なことになった、というのが正直な気持ちだったのですが、今はとてもデバイスが発達しております、その方はスマートフォンを持っていらつしやいました。

それでアプリに私が日本語でしゃべるとそれが画面に中国語になって変換されます。向こうの方が中国語で打つとそれが日本語になって出てくるというわけです。中国からいらつしやった二人と日本の方一人と私の4人で、アプリに対してとにかく吹き込むと。

最初は少し面倒だと思っていたところが、20分、30分してくるうちに結構楽しくなつてまいりました。どちらかというと、最初は日本の方と中国の方では目的が違つたのかもしれませんが、スマート

す。

いらつしやる方が、鎌倉を訪れる方が、そして鎌倉の神社仏閣を訪れる方たち一人一人が判断されることになるのかな、というのが質問に対するお返事になると思います。

柗淵 ありがとうございます。こういう話題というのは、神社やお寺の方に対してはある意味失礼なテーマだというのは承知の上で、あえてテーマに取り上げさせていただきますました。この点についてはお詫び申し上げますが、皆様、率直なところでお話しいただけたかと思えます。また、聞いていらつしやる方も、「そういうことなのだ」ということをお分かりいただ

けたかと思えます。

ここで5分程度、会場の皆さんから質問などをお受けしたいと思いますが、2名の方に限らせていただきますと思います。

質疑応答1

どうしたら古都らしいまち並みをつくることができるのか

参加者 アトキンソンさんの話で一点だけお聞きしたいのですが、鎌倉駅を降りて駅前のまち並みが古都を感じさせること、まち並みを作ることが大事だと、外国ではそういったまち並みがちゃんと保存されているということでした。裏側は近代的になっても良い

が、表側は少なくともやはり古いまち並みを維持することを考えても良いのではないかという提言がありました。

鎌倉はご存知の通り、この生涯学習センターのまわりを見ていただくとすぐ横に駐車場が出来てしまい、その横にはコンビニまで出来てしまったという、誠に古都らしくないまち並みになっていきます。北鎌倉では駅の横の洞門を壊す工事が今度行われるということもあり、本当に今、鎌倉は分かれ道にきていると思います。

古都らしいまち並みを残すためにアトキンソンさんに聞きたいのですが、それは例えば条例を作るとか規制をするとか、どういうふうにしたら古都らしいまち並みが

が規制されています。

50000件くらいだと思いますが、50万件になっているということは、幅広くやっているということとで、まち並みの特に古いところは全面的に指定をしています。指定しているということは、やってもらえないからこそ指定しているということですので、やはりかなり厳しく規制されています。

イギリスでは1720年以前に建てられた全ての建物が指定されています。所有者の考えは一切配慮されていません。国の方から強制的に指定されています。補助金も出ますが、建物を変えることに関して、ほとんど何もできないような状況になっています。1840年以前のものに関しては原則全て規制。ということは90%程度

出来るのか、是非ご提案をいただきたいと思えます。

アトキンソン氏 これは、規制で

す。やはり市長さんにやっていたかどうか方法がないと思います。海外では、先ほどのベネツィアとかフィレンツェの話を申し上げましたが、日本国内では、海外、特にヨーロッパは非常に意識が高くて市民が守っているのではないかと言われます。それは誤解です。

日本では国宝重要文化財が4273件あると思いますが、イギリス国内で国宝重要文化財は50万件あります。宗教施設や大きな貴族の館だけでは到底50万件にはなりません。教会全部でいたい24万

が規制されています。それ以降のものについては1947年7月1日以前のものはだいたい2割ぐらいが規制されています。国宝重要文化財の場合は境内に1個の国宝重要文化財がある所では、それに付属している1947年7月1日以前に建てられた全ての建物が一番高い位の指定文化財と見なされています。ですから、国宝が1個あれば門とか家だとかお手洗いだとかが全部国宝になってしまいます。そういうことまで厳しくやっているからこそ、ああいうふうにきれいなまち並みが残されています。

同時にまち並みのところで、元に戻しているところも結構あります。無理やり戻していると

ころもかなりあります。それに対しては補助金を出したり条例をつくったりしていますが、やはり観光の考え方を取り入れて、観光客のために、古いまちに住んでいる以上はある程度はそのコストを払ってもらおうという方針をイギリス政府は出しています。フランスやドイツもそうです。

結局は、京都によくある議論ですが「なんで自分たちがその犠牲を払わなければいけないのか」ということは、よくイギリスでも言われるので分かります。自分の実家も国宝に指定されていますので「なぜそのコストを払わなければならないのか」ということです。でも、よく考えてみますと「観光で生きている分だけそれに貢献し

「おわりに」 鎌倉市長からのあいさつ

鎌倉市長 松尾崇

本日は、まず第1部として鎌倉高校の3人の生徒さんのすばらしい発表、どうもありがとうございました。第2部ではデービッド・アトキンソンさんのご講演、そして第3部は社寺の関係者の皆様方とのパネルディスカッションということでご出演いただきまして本当にありがとうございました。

行政が主催をして、このような形で鎌倉市内の社寺の方々と、そして行政と、生徒さんを含めたパネルディスカッションというのはおそらく近年ではなかったことです。世界遺産登録につきましては、それぞれの皆さんの考え方があると思っています。

しかしながら、それが駄目だったということを契機に、また社寺の方々は東日本大震災を契機に心一つにして祈るということで、さらにそうした機運が高まっていると思いますし、鎌倉のまちとしても、こうした一つのきっかけをいただいて、鎌倉のまち全体が一つになっていくという機運が出来つつあるのかなと思っています。改めてスタートをするという機会をいただく中で、こうした議論を重ねていく、対話を重ねていくことが本当に重要なことだと思います。

今日もアトキンソンさんから、鎌倉にとっては大変重要なご指摘、もしくは鎌倉にとってはなかなか厳しいご指摘もありました。こうしたものをしっかりとこれから皆さんと対話を重ねて議論していく、そしてその先に鎌倉の文化財をしっかりと守り、そしてより良いまちづくりにつなげていくということがあると思っています。

本日のみならず、今後もしっかりと皆さんと共に鎌倉のまちづくりを考えていく機会をさらに作っていければと思いますし、また本日がそうしたとても良い機会になったと思っています。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

以上を持ちまして、本日の「歴史的遺産と共生する、これからのまちづくり～世界遺産のあるまちをめざして～」の講演会を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

なさい」と国から言われているわけです。仕方がないのかな、という気がします。

質疑応答2 歴史的建造物、景観の 保存について

参加者 世界遺産の登録に関わることなので是非お聞きしたいのですが、鎌倉市は皆さんご存知のように鎌倉幕府があったという名前が歴史的に残っているにも関わらず、歴史的建造物などが次々と姿を消していつております。鎌倉は日本のみならず、諸外国からも歴史的な場所として注目されております。これ以上利便性を追求し、歴史的建造物を失くしてしまうこ

とより、歴史的建造物を維持しながら鎌倉時代の景観をイメージできるといい保存を今後心がけていただきたいと思っております。

身近な問題としては、北鎌倉隧道である緑の洞門が破壊されてしまうことについて問題となっております。緑の洞門のある地域は、本年1月、国に認可された歴史的風致維持向上計画の重点区域内でもあります。そしてまた重要文化財に指定されている円覚寺境内絵図があり、その絵図の中に緑の洞門のある尾根が描かれており、歴史的に価値のある場所だと思えます。そして世界遺産に際しては必要不可欠な場所であります。鎌倉市に対しての要望でございますが、是非緑の洞門を守っていただ

きますよう再検討をよろしく願い申し上げます。その件に関してご意見を賜りたく存じます。

榊 その点に關しましては市長と私が要望書を受け取っておりますので、後日改めましてご返答申し上げます。

それでは時間も迫りました。これでパネルディスカッションを終了します。